

2015年11月1日

マタイ 22章 1-14節、Ⅱペテロ 1章 10節

「選ばれた者の特権を考える」

序論：

人は何かを通して、「名誉だ」と思うことがあります。今から 30 年ほど前、大野先生という札幌の牧師さんの知り合いが私を青瓦台に連れて行ってくれました。青瓦台というのは韓国の政府があるところ。そこに大野先生の友人の新聞記者、金ギョンネさんが連れて行ってくれたというわけです。詳細は話せませんが、当時の政府の官僚と会いました。食事ももてなしもすばらしいものでいいお話をすることができました。彼らにとっては当時の ICBC の牧師、石原師から聞きたい話があったようです。私はまだ若造で価値がわかりませんから、ひたすら出されたうまい食べ物を食いまくりました。

私の場合、それ以外に何らかの名誉に浴するような機会はまったくありませんでしたので、この状況がいまいちピンと来ません。皆さんはどうでしょうか。

古賀常次郎さんは私と違います。勲章を 62 回授与された人物として、ギネス世界記録に載っています。もちろん天皇や首相からも直接授与されています。彼は皿つきビスを発明し、自分の会社を興し、私財から計 5 億 5 千万円ほどを今までに寄付している人でもあります。この人は名誉によくしている人ですね。王の婚礼にも招待されるにふさわしい人です。こんな人が皆さんの周りにいますか。

王の招待：

王様に招待されたら、最高です。今の日本に当てはめたらどうでしょうか。新宿御苑で催される天皇主催のパーティーに招かれるようなものでしょうか。ここでは王子の結婚披露宴とありますから、その国の中では最高レベルの祝賀行事といってもいいでしょう。



そんなパーティーを誰が断りますか。自分の仕事なんかそっちのけで参加するのではないのでしょうか。しかし、この聖書のたとえ話ではみな一様に断るのです。なぜこんなことが

起きたのでしょうか。彼らはそれが王からの招待状だと気づいていないのです。ルカの福音書には断りの理由が出てきます。「畑を見に行く」「牛を試しに行く」「自分が結婚した」、つまり、自分の財産のこと、仕事のこと、人間関係のことに気をとられ、王様と知り合いになることよりもそっちが大事だ、となってしまったのです。

私たちはどうでしょうか。全宇宙の王、創り主である主よりも、その主と出会うことよりも自分の家のこと、仕事のこと、友人関係のことを先に心配していないでしょうか。私は残念ながら、よくそんなことをやらかします。ですから、ここに出てくる招待客と同じく滅びて当然の者なのです。

王に選ばれた者

招いた客が一人も来ないということで、王は大通りから人を集めます。どんな人たちだったと思いますか。貧しい人、不具の人、盲人、足なえなどなど出てきます。普通なら王の婚礼出席にはふさわしくない、と思われても仕方のない人たちです。私たちの大半は「自分はそういう人間ではない」そこまで落ちぶれてはいないと思うものです。私にもそういうところが多々あります。さっき言ったような人たちにというよりも、中学生や高校生たちに対して「なんでこんなことがわからないのだ。ちゃんと覚えるくらいのことはしてこいよ。おれが学生時代はもっとましだったぞ。」先日も AO 入試の願書を書き損じた学生に注意しながらも、あなたはどうでしたか、と聞かれ、「いやあ、おなじようなミスはしょっちゅうしてたような気がする。」と認めざるを得ませんでした。

授業中にいつも居眠りしてる子がいるのですが、事情も知らずに注意して失敗もしました。でもこの人たちは選ばれていたのです。そして、あなたも選ばれているのです・

選ばれた者の条件

この選ばれた人たちが参加するパーティーにはひとつだけ条件がありました。礼服を着てくるといふものです。私は礼服を持っていないのでいつもそれっぽいもので間に合わせています。街角で拾われたこの人たちもいったん家に帰って礼服に着替えてきたとは到底思えません。おそらく宮中に来てから手渡されたのではないのでしょうか。

そして私たちの礼服はなんでしょう。イエスキリストの贖い、すなわち十字架の救いです。私たちが自分で用意したのではありません。主が用意してくださったのです。私たちはそれを着るだけ、つまり受け入れるだけでいいのです。

主からのサプライズ

さて聖書はここで終わっていますが、実は私たちにはもっとすばらしい約束がなされています。王のパーティーに招かれる。これだけでもすごい喜びです。しかし、主はあなたにはそれ以上のことをしてくださったのです。

はじめに触れた古賀常次郎さんですが、彼が一生のうちでもっともうれしかったことは何でしたか、ときかれ、「定時制高校を卒業できたこと」です。といたのが印象的でした。彼のところに佐賀新聞の記者が来て、記事にしてくれたというものです。自分のことを知って取材に来てくれたことがよほどうれしかったのです。

今日、主は皆さんを選び、天の祝会、セレブレーションに招いただけでなく、逆に皆さんのところに来てくださったのです。イエスは言いました。「ザアカイ、今日はあなたの家に泊まることにしてあるから。」主は私たちのところにお客に来てくださったのです。そして今もあなたの心に泊まっていてくださるというのです。私たちがお客になるのではなく、主が客人として、うちに来てくださる。なんとと言う恵み、なんとという愛でしょうか。この主を褒め称えずにはられません。

参考：古賀常次郎、五つのことば

「時間に遅れない」

「嘘をつかない」

「お世辞を言わない」

「他人のせいにしない」

「他人の手柄を自分の手柄としない」